

mizuki

OMC

大阪医科大学附属病院 病院医療相談部

医療連携室ニュース ● 2008年1月発行

みずき
第9号

contents

| | |
|---------------------------------|-----|
| ● 年頭のご挨拶 | P.1 |
| ● 診療科の紹介 | |
| 耳鼻咽喉科 | P.2 |
| 脳神経外科 | P.3 |
| ● 平成19年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告 | P.4 |
| ● 病院医療相談部組織変更のお知らせ | P.4 |
| ● 今後の予定 | P.4 |
| ● 編集後記 | P.4 |

謹賀新年
2008

年頭のご挨拶

病院医療相談部部長 花房俊昭



皆様 新年明けましておめでとうございます。
旧年中は病院医療相談部に対しましてひ
とかたならぬ御支援を賜り、心より御礼申し上げ
ます。本年も皆様方のお役に立てるよう、部員一同日々努力し
てまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

さて、大阪医科大学附属病院におきましては、昨年秋、相談
部の一部門として「がん相談支援センター」を開設いたしました。
当センターでは、皆様のがん療養に関するいろいろな不安
や悩み等について、がん看護専門看護師や医療ソーシャルワ
ーカーがご相談に応じさせていただきます。当院におかかりの
患者さまや御家族だけでなく、一般市民の皆様方からのご相
談にも広く応じさせていただきますので、どうぞお気軽にご利用
いただけますようお願い申し上げます。

本年も医療がますます高度化・複雑化することが予想され
ますが、そのような時代にあっても、医療者と患者さまの間のコ
ミュニケーションの重要性はもとより、医療者同士のコミュニケーション
が医療の基本であることは変わらぬ真実であると思って
おります。私ども病院医療相談部一同は、連携医療機関の皆
様と当院を結ぶ架け橋として、本年も皆様方との連携強化に
努めてまいりますので、ご指導賜りますよう何卒よろしくお願ひ
申し上げます。



診療科の紹介 ● 耳鼻咽喉科



耳鼻咽喉科 科長
竹中 洋 先生

耳鼻咽喉科・頭頸部領域の診察はお任せください

耳鼻咽喉科では耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭の疾患のみならず、頸部の腫瘍なども含めた頭頸部疾患全般を扱っております。

感覚器機能外科（難聴、中耳炎、副鼻腔炎、鼻アレルギー、扁桃炎、嘔声、嚥下障害など）と頭頸部腫瘍外科（舌癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍）の二本柱の診療体制で、他科と連携しながら高度な医療の提供を常に心がけております。

現代の高齢社会において、「聴く」、「嗅ぐ」、「味わう」、「飲み込む」など、患者さまの生活の質の向上に耳鼻咽喉科診療の重要度は増しております。

専門外来について

当科での専門外来について、一部ご紹介いたします。

アレルギー外来

担当／竹中 洋

花粉症やダニなどの通年性鼻アレルギーの患者さまに対して、アレルギー反応の場となっている鼻粘膜の切除やレーザーによる焼灼を行っております。また抗原注射による減感作療法を積極的に行っております。特に当科は、数日の入院で減感作の導入を完了する急速減感作療法を施行している関西で唯一の施設であり、多忙な患者さまに対しても減感作療法のメリットを提供する体制を整えております。そして、今や国民病とも言われる鼻アレルギーに対して、患者さまの社会的背景に応じたきめ細かい診療を行っております。

頭頸部腫瘍外来

担当／河田 了

舌癌や咽頭癌、喉頭癌など頭頸部癌の手術治療では、「噛む」、「飲み込む」、「喋る」といった生命あるいは社会生活の維持に欠く事のできない機能がしばしば犠牲になります。しかしこの犠牲を恐れる余り縮小治療を行いますと、根治は困難になります。この両者のバランスが頭頸部癌の治療の上で最も重要であり、我々は患者さまの病態を詳細に把握し、時に消化器外科や形成外科、放射線科の協力の下、生命予後と生活の質の両立を最重要課題に診療に取り組んでおります。また唾液腺腫瘍（耳下腺や頸下腺）、甲状腺腫瘍の外科的治療にも力を入れております。

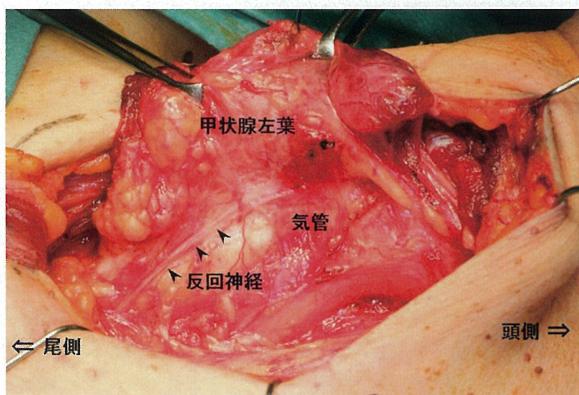
中耳・伝音外来

担当／萩森伸一

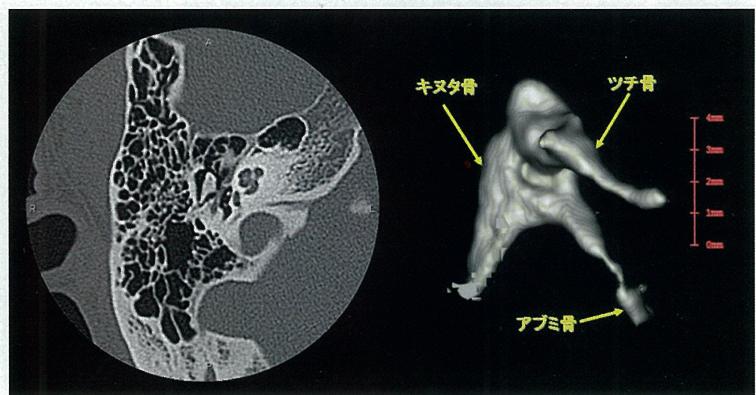
主に中耳炎による難聴の患者さまに対して、手術中心の治療を行っております。聴力改善目的で行う鼓室形成術は年間約80件と関西でも有数の手術施設であります。手術手技の工夫・改良により全国的にも高い聴力改善成績を得ており、手術合併症の少ない、安全で高度な手術治療を提供しております。また顔面神経麻痺の患者さまには、入院の上ステロイド大量療法を柱とする急性期治療と、電気生理学的予後診断に基づいた亜急性期手術療法を行っております。

専門外来は、当科初診医の診察後に受診予約をさせていただいております。

専門外来の受診を希望される患者さまも、ひとまず初診医へご紹介ください。



甲状腺癌の手術



側頭骨高分解能CT(左)と耳小骨再構築画像(右)

診療科の紹介 ● 脳神経外科



脳神経外科 科長
黒岩 敏彦 先生

脳腫瘍の治療に際しては、MRIや脳磁図などの各種検査で言語中枢や運動中枢などの部位を術前に確実に同定します。場合によっては脳表に電極を置いて1週間かけて局所脳機能を評価したり、手術中に患者さんに覚醒していただいて会話をしながら腫瘍を摘出します。こういう工夫によって安全に腫瘍を最大限摘出できます。悪性脳腫瘍の治療には特に力を入れており、手術中に浸潤脳腫瘍を蛍光色素で可視化する方法を開発していますし、術後は硼素中性子捕捉療法を行っています。この照射方法は世界的にも注目されており、海外からの紹介患者もあります。さらに、腫瘍の遺伝子を解析することによってテラーメイドの化学療法を行っています。良性脳腫瘍に対しては、神経症状の悪化を来さない程度に可及的に腫瘍を摘出し、必要なら術後にXナイフなどの補助療法を追加することにより、機能予後、生命予後ともに良い結果が得られています。



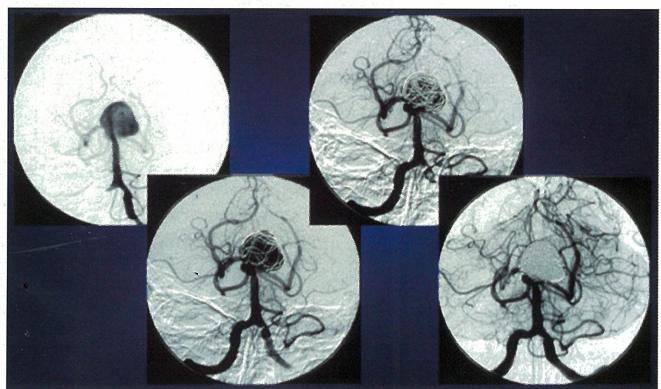
硼素中性子捕捉療法のための
京大原子炉(上)と
照射装置(下)



最先端かつ低侵襲の治療を行っています

脳神経外科では、脳・脊髄領域の腫瘍、血管障害、外傷、奇形、感染、そして機能脳神経外科疾患（顔面痙攣、三叉神経痛、てんかん、パーキンソン病など）、水頭症など、幅広い疾患の治療を行っています。
画像診断法の著しい進歩を背景に、脳の局所機能を詳細に分析し、安全で低侵襲かつ効果的な治療を行っています。

血管障害や外傷の重症例は、近くの三島救命救急センターに搬入されますので、当院では比較的軽症例やかかりつけの方が中心になっていますが、重症例の受け入れ態勢は常時とれていますので、いつでもご紹介いただきたいと思います。血管閉塞に対して最近注目されています血栓溶解剤tPAもいつでも開始できますし、既に多数例の実績もあります。血管障害の治療においては血管内治療の占める役割が益々増していますが、動脈瘤にはコイル塞栓術、内頸動脈狭窄症にはスチント留置術など、低侵襲な治療が可能となっています。



巨大脳動脈瘤のコイルによる治療



内頸動脈狭窄症
ステント留置後

水頭症は、近年、特発性正常圧水頭症の概念が確立されて、治療可能な認知症として注目されています。尿失禁、歩行障害、認知症が特徴的な症状で、治療はきわめて簡単なシャント術だけですので、これらの症状があればご紹介ください。

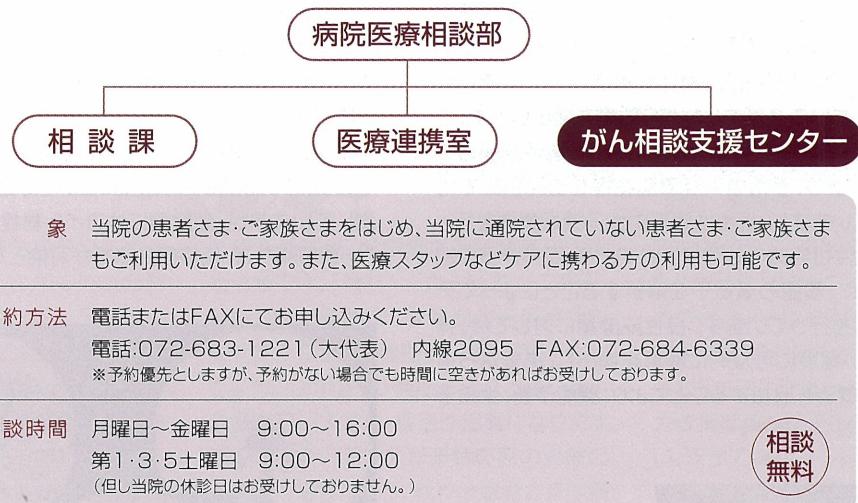
平成19年度大阪医科大学附属病院連携病院長会総会 開催報告



去る平成19年11月22日、連携病院より84名、院内より28名の先生方にお集まりいただき、たかつき京都ホテルにて開催いたしました。今回は厚生労働省東海北陸厚生局より局長の麦谷眞里先生をお招きして、「日本の医療の今後—医療保険を中心に—」と題して講演を行っていただきました。懇親会も大勢の先生方にご出席いただき、和やかな中に終了しました。

病院医療相談部組織変更のお知らせ

当院では、がん患者さまとそのご家族さまに対して療養上の不安や悩み等についての相談をお受けするため「がん相談支援センター」を病院医療相談部に開設いたしました。



今後の予定

- 三島圏域緩和医療セミナー(平成20年2月1日)
- 高槻市医師会・大阪医科大学医療連携合同会議(平成20年2月2日)
- 三島圏域がん・緩和医療研修会(未定)

編集後記



一年で最も寒さが厳しいと言われる大寒を迎えました。
皆様方には新年を迎えられ、やっと落ち着きを取り戻された頃かと存じます。
今年は「子年」で干支頭にあたります。
節目として様々な事をリセットするには良い機会かも知れません。
本年は4月に「平成20年度診療報酬改定」が控えており、
医療機関にとっては「引き上げ」か「引き下げ」かの緊張の瞬間でもあります。
噂によりますと若干のプラス改定の予測がなされておりますが、予断を許さない状況でもあります。
病院医療相談部も昨年11月に組織内に「がん相談支援センター」を設立し、
ますます、地域医療圏におけるがん医療の中核病院としての機能を果たそうとしております。
今後は今まで以上に特定機能病院・大学病院として地域医療に貢献できるよう努力を重ねる所存です。

(T.S)